

蔬菜振興戦略を担う 省力品種で所得向上を図る

ホウレンソウ「^{ばん ちゆう}晩抽サマースカイ」

コマツナ「^{な な み}菜々美」

ミズナ「^{きょう}京みぞれ」

東神楽農業協同組合
営農指導課
塚田 ^{のりかず} 則和

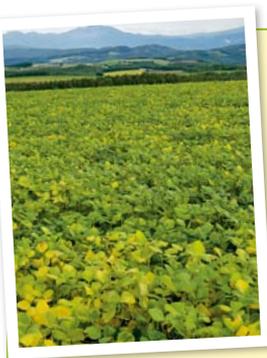


北海道の高温期でも徒長せず株張りのよいコマツナ「菜々美」。



↑東神楽では導入当初からの高い実績を誇るミズナ「京みぞれ」。

↑ホウレンソウ「晩抽サマースカイ」の生育について熱心に話し合う、生産者の松永功さん(左)と筆者。



↑JA管内から見える大雪山。



現在は、旭川空港を擁する道北の空の玄関口として、また、隣接する旭川市のベッドタウンとして宅地化が進む一方、稲作をはじめ、野菜の供給基地として発展しています。都市近郊型農業と純粋な水田畑作地帯の農業が調和のとれた農業基盤を形成しています。

現在は、旭川空港を擁する道北の空の玄関口として、また、隣接する旭川市のベッドタウンとして宅地化が進む一方、稲作をはじめ、野菜の供給基地として発展しています。都市近郊型農業と純粋な水田畑作地帯の農業が調和のとれた農業基盤を形成しています。

豊かな土地 東神楽



→
「晩抽サマースカイ」は葉軸が折れにくく葉の傷みも少ないので調製しやすい。松永さんの奥様も笑顔で実感。



↑「晩抽サマースカイ」の播種期は3月中旬～4月下旬と8月の2回。春～秋どりの雨よけ栽培。



↑筆者とスタッフの皆さん。作業が容易で省力化ができる「晩抽サマースカイ」は調製作業の現場で好評。



↑「晩抽サマースカイ」調製作業の様子。



←↑色ツヤのよい濃緑葉が美しいハウレンソウ「晩抽サマースカイ」。

● 蔬菜振興のあゆみ

東神楽は戦後、米主生産地上川の中でも有数の米どころとしてその地位を築いてきましたが、転作を余儀なくされた農業状況の中、JA東神楽として将来を見据え、水田にプラス野菜を加えた水田複合経営の確立を目指してきました。

中規模経営面積農家が主流を占める中、農業所得向上のための戦略として、蔬菜の導入を明確に位置付けし、「東神楽蔬菜研究会」を中心に品目別部会活動の活性化を図り、集出荷貯蔵施設・予冷庫などを積極的に導入しています。また、着実な生産の拡大に伴い、より一層の野菜生産拡大・高収益性品目の導入を目指し、付加価値向上のために加工事業を取り入れ年々拡大してきています。

これらの取り組みをはじめとし、積極的推進による農業経営の安定と、魅力ある農業を構築しています。

● 平成24年度ハウレンソウの生育概況

平成24年度、4月上中旬の生育は平年並みでしたが、6月中旬～7月上旬は平年より気温が低く経過降水量も多く軟弱徒長に生育しました。

7月上旬～8月中旬は高温障害と萎

凋病が発生しました。さらに、9月中旬まで気温が高く推移したことに伴い地温が高く、平年では発生しない秋においても萎凋病が発生しました。

また、ハウレンソウケナガコナダニの発生は平年に比べ少なめでした。

● 省力化と高秀品率を両立させる

ハウレンソウ「晩抽サマースカイ」

ハウレンソウは、労働時間に占める収穫・調製作業の割合が高く、作業効率の向上が求められています。そのため「省力化」ができて「秀品率が高い」品種が切望されていました。毎年さまざまな品種の試作試験を行い、安定出荷を確立させるための取り組みを続けてきたのです。

平成24年度は例年に比べて雪どけがたいへん遅く、地温が十分に上がらないまま播種せざるを得ない状況でした。しかし試作を重ねていく中で「晩抽サマースカイ」と巡り会いました。

「晩抽サマースカイ」の当地区の播種期は、3月中旬～4月下旬と8月として、春～秋どりの雨よけ栽培に設定しました。

4月上中旬の生育は平年並みでしたが、ハウスの整地不十分による灌水ムラで一斉収穫にはならなかったものの葉は色ツヤのよい濃緑色が目立ち、草姿が立性で葉の絡みが少なく、収穫・調製作業が手早く行えるため好評を得

→
「京みぞれ」園場。



↑園場では収穫とともに調製作業が行われている。

→
生産者の遠藤忠志さん（左端）と調製作業スタッフの方々。束のそろいのよい「京みぞれ」はスタッフの方々からも高評価。



↑カッピングになりにくく、茎葉が大きく荷姿のよい株が収穫できる「菜々美」。

す。そうした状況を改善できると紹介
細くなるなどさまざまな問題がありま
当地でのコマツナの栽培には、株が

ミズナ「京みぞれ」

産地導入当初からの実績を誇る

●夏の高温乾燥下でも品質のよい
コマツナ「菜々美」

と被害が見られました。
病虫害では、キスジノミハムシの発生
地温が高く、立ち枯れが発生しました。
ミズナは6〜7月にかけて平年よりも
コマツナの生育は平年並みでしたが、

平成24年度 アブラナ科野菜の概況

「軸が太く葉も大きいので、ボリュー
ムのある束になる」
と、高評価を受け一気に普及してい
きました。
ミズナ栽培では、導入当初から実績
のある「京みぞれ」を導入しています。
この品種は、株張りがよく、品質がす
ぐれています。収穫・調製作業も容易
で東ねやすいと評判です。

安心してできるタキイのタネ

この品種は、有望品種の試験を繰り返
しながら安心して栽培できるハウレン
ソウ・コマツナ・ミズナを探し続ける

ました。

一方、8月の生育は高温障害と萎凋



↑生産者の奥平慶一さんも「菜々美」の出来に満足のご様子。

されたのが「菜々美」でした。
「菜々美」は春〜秋どり種として適し
た特性で、近年の北海道の暑い夏でも
緩やかに生育し、間延びしにくく株張
りが出て多収でした。好結果により生
産者からの評価を得て、平成21年より
導入しています。
導入後生産者からは、
「収穫する時に葉が絡みにくく、葉軸
も折れにくい」
「下葉が今までの品種に比べると小さ
いので選別がしやすくなった」
「高温乾燥時期でもカッピングしにく
いし、葉にツヤがあつて荷姿がよくな
る」

安心・安全を重視

必要があります。タキイさんには、品
質のよさとともに、収穫がスムーズに
行うことができ、調製作業にも手間の
かからない野菜を作っていただきたい
と思います。

近年食品の安全に対する信頼性が重
視され、当JAでも生産物栽培履歴記
帳運動を進めています。また農薬の安
全使用（使用基準の遵守）の徹底と、
作物残留農薬の自主検査も行い、消費
者へ「安心・安全を届ける産地」とし
て消費地との固い絆を結び、それを基
盤にさらなる発展をしています。

自然や環境問題がクローズアップさ
れている現在、資源の再利用など自然
へのやさしさも考慮し、堆肥センター
によるふん尿の利活用の推進、夏季の
連作障害防止のための環境にやさしい
土壌消毒機の活用、高温対策として被
覆資材利用の推進など、高品質生産の
ために役立てています。



↑「安全・安心を届ける産地として、消費地との絆をさらに発展させていきたい」と語る筆者。